

東京庄原格致会会報

第28号

2020年9月

発行人・八谷英樹

編集人・武廣 巖

印刷所・(株) クレスコアノス
ゴムニケーションズ

令和2年度の 総会・懇親会は 断腸の思いで中止

大変残念ですが、新型コロナウイルスの感染症拡大防止の観点から、令和2年度総会・懇親会は中止とします。

会員の皆様、体調には十分ご留意いただき、来年お会いしましょう。

令和初の総会・懇親会 楽しく・和やかに開催 新会長に八谷英樹さん (35年卒) を選任

即位礼正殿の儀を二日後に控えた10月20日(日)、東京庄原格致会を応援・祝福してくれるかのよう
に天候も回復し、11時過ぎから

次々と同窓生が集まってきました。遠くは湖西市(静岡県)からの参加者もあり、母校今岡校長他4名の来賓の皆様を含めて総員47人で一年ぶりの再会を楽しみました。会場には助政さん(40年卒)撮影の庄原市内の写真(備北公園等)や林家ひろ木師匠(平成10年卒 本名沖上比呂志)のポスターが掲示されていました。

【総会】

定刻12時から武廣巖幹事長(48年卒)の司会で総会が始まりました。冒頭、この一年に事務局にご逝去の連絡をいただいた4人の方(野村清様 25年卒、小林未雄様 25年卒、原由比様 35年卒、山岡武男様 39年卒)に黙祷を捧げ、次いで御来賓の皆様(今岡護母学校長先生、佐藤勉母校同窓会副会長、新井教亨庄原実業高校東京支部副支部長、後藤峰登世羅高校東京校友会副会長、大竹美喜東京広島県人会会長)の紹介がありました。

積山弘佳会長(35年卒)から、台風被災者へのお見舞い、来賓の皆様さん、同窓同郷の皆様さんと一年ぶりの再会をしっかりと楽しんでいただきたいたとの開会挨拶がありました。

続いて2年ぶりに出席いただいた今岡護校長から①2年前の創立120周年記念事業への協力御礼②6年間の在籍中に懸案であった渡り廊下の設置・校舎の改築が出来たこと③新規開設した医療・教職コースに40人の定数を上回る応募があったことなどのお話をいただきました。

次に、佐藤勉母校同窓会副会長(34年卒)から祝辞をいただきました。佐藤副会長は長く母校の教師として学生の指導にあたってきたとの話をされた後で、①三日後の23日に昨年7月の西日本豪雨のため不通となっていた芸備線が全線復旧すること②

会報27号を見て、

東京庄原格致会の活動は素晴らしいと感



開会挨拶をする積山会長

東京庄原格致会総会



出席された皆さん



司会をする武廣幹事長

等述べられました。

次に、積山会長を議長として議事に入り、第1号議案(30年度事業報告・決算報告)について武廣幹事長から説明がありました。

○事業報告 年一回の会報作成、三つの同好会(囲碁・ゴルフ・日帰りバス旅行)の活動、役員会の開催等、例年ベースの内容

○決算報告 (収入) ①120周年記念事業で本部から受けた助成金がなくなったために収入額は減少②減り続けていた年会費収入が4人増加。(支出) 収支が厳しいことから同好会に出していた助成金を廃止。次期繰越金は87千円余(前年度比マイナス28千円余)。

この報告について、遠藤靖夫監事(37年卒)から「慎重に監査をしたところ、適正に処理されていると確認した」との報告がされ、事業報告、決算報告は、全員一

致で承認されました。

第2号議案(役員改選) 今年が一期2年の改選期に当たるため、積山会長から「三期6年を務めたこと、体調不良もあり退任したい」との発言がなされ新会長の選任に移りました。自薦者はなく、積山会長から八谷英樹さん(35年卒)が推薦され全員一致で承認されました。これを受けて八谷新会長から「間もなく78歳を迎える老骨であるが、会員の皆様のご支援・ご協力、さらには苦言・叱責をいただけることを力にして会の運営に努力したい」との挨拶があり、新会長を支え、共に運営に当たる新執行部が承認されました(新体制は、12ページの役員名簿に記載)。



祝辞を述べられる佐藤母校同窓会副会長



祝辞を述べられる今岡校長



就任挨拶をする八谷新会長

以上で総会が終了し、地元の写真クラブで活躍されている助幹事長(40年卒)のリードでニックリと集合写真におさまりました。

【懇親会】 定刻より早く、12時50分から助政新幹事長の名調子の司会で懇親会のテープが切られました。

来賓の大竹美喜様(東京広島県人会会長)が早めに退席されるとのことです。最初の乾杯の音頭をお願いしました。「定年後の人生をいかに歩むか、会社の名刺で生きる人間はダメ」「過去を振り返らず明日を元気に頑張ろう」等の



監査報告をする遠藤監事

スピーチをされた後、1.明るく2.楽しく3.前向きにと三分の1ずつ三回で杯を空にする方式(三つの頭文字をとって「あたま」)が大切)で乾杯の発声をされ、楽しい食事・団欒に入りました。

ビール・日本酒・焼酎・ワインなどで喉をうるおし、和洋食でお腹を満たしたところで、新井教亨様(実業東京支部副支部長)、後藤峰登様(世羅東京校友会副会長)から祝辞をいただきました。

歓談が続く中、落語家林家ひろ木師匠と「東京庄原格致会林家ひろ木後援会」会長 助政さんとの軽快・巧妙なやり取り、ひろ木師匠の小噺で会場は一層盛り上がりました。

団欒の輪が盛り上がる中、庄



祝辞を述べられる新井実業副支部長



乾杯の音頭をとられる大竹東京広島県人会会長

原郷土民謡「敦盛さん」を大岩征子さんのリードで歌い、次いで元母校教員であつた佐藤勉さんのリードで校歌・応援歌を高らかに歌い上げました。「感謝の歌」「集会の歌」は佐藤先生が作曲されたものです。

最後に渡邊千草副会長(38年卒)が閉会を告げ、参加者は事務局が用意した郷土土産を手同期会や仲間との二次会に流れて行きました。



祝辞を述べられる後藤世羅副会長



ひろ木師匠と助政さん



歌う美人(渡邊・川野・岡崎)

出席者名簿

- | | |
|---------------|------------------------------|
| 今岡 護 | 庄原格致高校校長 |
| 佐藤 勉 | 庄原格致高校同窓会副会長 |
| 新井 教亨 | 庄原実業高校東京支部副支部長 |
| 後藤 峰登 | 世羅高校東京校友会副会長 |
| 大竹 美喜 | 東京広島県人会会長・アフラック創業者 |
| 室伏 孝一 | 昭和二十五年卒 (山内西) |
| 兼利 卓威 | 昭和二十八年卒 (西城) |
| 信清 治 | 昭和三十一年卒 (庄原) |
| 飛谷 安宣 | 昭和三十三年卒 (山内東) |
| 生田 八洲 紘 | 昭和三十三年卒 (濁川) |
| 合田 良三 | 同 (三田市) |
| 中村 紀子 | 同 (国原) |
| 森沢 進 | 同 (川北) |
| 池田 洋子 | 昭和三十四年卒 (庄原本町) |
| 香川 邦生 | 同 (川北) |
| 熊原 清 | 同 (山内) |
| 黒田 正宏 | 同 (山内西) |
| 迫田 芳徳 | 同 (山内西) |
| 近保 幸 | 同 (庄原本町) |
| 田淵 統洋 | 昭和三十五年卒 (庄原本町) |
| 積山 弘佳 | 同 (口和) |
| 光島 勝馬 | 同 (比和) |
| 八谷 英樹 | 同 (比和) |
| 吉岡 公義 | 同 (庄原) |
| 天野 皓昭 | 昭和三十七年卒 (庄原本町) |
| 遠藤 靖夫 | 同 (高) |
| 大岩 征子 | 同 (高) |
| 新山 千穂 | 同 (庄原本町) |
| 池田 強 | 昭和三十八年卒 (西城) |
| 岡崎 千鶴子(伊藤) | 同 (川北) |
| 小池 正江(明石) | 同 (西城) |
| 川野 正之 | 同 (庄原) |
| 塚原 通彦 | 同 (総領) |
| 渡邊 千草 | 同 (川西) |
| 渡邊 俊昭 | 同 (千草様のご主人) |
| 中田 毅 | 昭和三十九年卒 (春田) |
| 助政 千尋 | 昭和四十年卒 (板橋) |
| 田中文男 | 同 (西城) |
| 花田 和教 | 昭和四十二年卒 (三次) |
| 新宅 一二三 | 同 (東城) |
| 吉田 玲児 | 昭和四十八年卒 (宮内) |
| 武廣 巖 | 同 (木戸) |
| 西川 進 | 同 (比和) |
| 畑原 裕文 | 同 (庄原本町) |
| 平川 公成 | 同 (庄原本町) |
| 林家 ひろ木(沖上比呂志) | 平成十年卒 (東城) |
| 小林 正治 | 元東京広島県人会幹事
氏名の中の(一)は旧姓・本名 |

同窓の絆を強く！
親睦の輪を広げましょう



東京庄原格致会会長
八谷 英樹
(昭和三十五年卒)

東京庄原格致会の会員の皆様には、新型コロナウイルス騒動の中、如何お過ごしでしょうか？元氣にお過ごしのことをお願いしております。私は昨年の総会で積山会長の後任会長に選出されました。母校・故郷を同じくする会員の皆様方との絆を大切に親睦の輪をより一層広げることが出来ればと思っております。宜しくお願い致します。

ところで、誠に残念なことです。新型コロナウイルスのまん延状況に鑑みて今年の定例総会・懇親会を中止せざるを得ないと決断しました。一年ぶりに皆様方とお会いし、語り合えることを楽しみにしていましたが、新規感染者の増加に歯止めがかけられない状況での苦渋の判断です。宜しく御了解ください。

この三月、母校では今岡校長先生が定年退職されて、後任に青本眞二先生をお迎えしております。今岡先生には5年間の長きにわたり後輩

を指導いただき、その間、私共の総会に2度参加いただき激励励ましのお言葉をいただきました。改めて御礼申し上げます。改めて御礼申し上げます。後任の青本先生は母校を卒業されており一段と親しみを持っております。ご指導いただけますようお願い致します。

先輩が昭和57年に立ち上げられた東京格致会(平成17年に現在の「東京庄原格致会」に名称を変更)の基盤をしっかりと守り後輩に引き継ぐことが私の役目とも考えております。会員の皆様方にはこれまで以上に協力をいただきますようお願いすると共に、会の運営等について忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願い致します。

あらためて東京庄原格致会が置かれている現状を振り返ってみますと、昨年度の実績で会員数は512人(会報送付者数)、その内で2千円の年会費を納めていただいた方は110人です。年々少子高齢化に伴う会員の減少それによる会費収入の減収が続いており非常に厳しいものがあります。積山前会長時代もやむを得ず同好会への助成金をカットするなどの努力をしていますが新たな企画に踏

み出す余力がありません。

年一回の会報の発行、十月開催の年次総会の開催、三つの同好会活動、ホームページを通しての情報発信が現在行っている内容です。当面はこの活動の強化、すなわち会報の充実、年次総会への参加者数の増加、同好会参加者の拡大、H・Pでの会員間での情報交換等、出来る限りの努力を続けて活性化に繋げる必要があると考えております。会員の皆様の積極的な協力・参加をお願い致します。

また、年会費の納入のお願いの他に寄付金もお願いしております(昨年は10人の方から寄付をお寄せいただきました)。現在の会員名簿は平成18年に当時、事務局長であった私を中心に、故金森裕雄先輩の助言をいただきながら作成したものです。個人情報保護などの課題はありますがその更新が必要と考えております。そのため財源に充てるためにも寄付金のご協力をお願い致します。

ところで皆様は「東京庄原格致会」のホームページをご覧いただいたことがありますか?是非、「東京庄原格致会」と入力して検索してみてください。H・Pには、「会報」を創刊号から現在の27号

まですべて掲載している他、「会の歩み」や同好会の活動などを掲載しております。また、皆様からの投稿欄もあります。母校のH・Pや庄原市役所、東京広島県人会のH・Pにもリンクしております。是非一度、開いてみてください。

この春以来、新型コロナウイルス騒動のためにゴルフ・日帰りバス旅行、月一回の囲碁の例会も中止を余儀なくされて同窓生の懇親の場を失っております。遅れていた梅雨が八月の声を聞いてやっと明けました。これからの真夏の暑さでコロナが治まることに期待しながら早い機会に皆様と再会できることを楽しみに、もらわない・うつさないに気を付けて皆さん一緒に頑張りましょう!!

(八月二日 記)

「格致高校」の卒業生として引き継ぐもの



広島県立
庄原格致高等学校
校長 青本 眞二

この度の人事異動により、4月から母校格致高校の校長となりました青本と申します。昭和56年度に卒業して18年後に母校で4年勤めさせていただき、さらに18年後に校長となり母校に勤めさせていただきましたことになりました。どうかよろしくお願いします。

さて、東京庄原格致会の皆様方には、日ごろから本校の教育活動にご理解、ご支援を賜り誠にありがとうございます。故郷を離れてなお、格致高校で切磋琢磨され、青春の熱い時期を過ごされた母校の思いは、遠く東京であっても決して忘れることのできない思い出となつていらつしやると思っています。私も、就職した当初は広島市採用であり、広島市立の中学校・高等学校に13年勤め、そろそろ庄原に帰りたいと思い、広島市教委に申し出て県立の学校に出していただきました。しかし、本校勤務は4年だけで異動となり、後は庄原から遠い和歌山県(交流人事)や広島市、東広島市、福山市などに勤めることとなり、いつになつたら帰らせてもらえるのかと思つておりました所、このたびの人事異動でやつと帰ることができました。3月末の引継ぎで本校に来た

時、校舎の3階の渡り廊下から西城川の流れを目にしたとき、高浜虚子の「春風や 闘志抱きて 丘に立つ」と句を思い浮かべ、母校の皆さんが格致高校を誇りに思い、格致高校への思いを益々強めていただけるよう全力で本校の発展のために取り組んでまいろうと決意を新たにしました次第です。

さて、現在格致高校は各学年3クラスの全校生徒341人の比較的小規模の学校となっております。しかし、寮生は依然として50名以上おり、地元の庄原市や三次市はもとより、世羅町や神石高原町、遠くは廿日市市、福山市からも一部生徒が来てくれています。人口減のため、クラス数は昔の半分程度になっていきますが、部活動にも90%以上が加入する活気のある学校となっております。本校は平成12年度以降広島県教育委員会から学力向上対策の指定校として、進学指導に向けて様々な取組を行ってきましたが、人口減少に伴い、また今後の学校の在り方を検討する中で、平成30年度から医療・教職コースが設置されています。今後、庄原市、三次市など県北の中山間地ではより一層医療が必要とされるためであり、本校の前身となる

格致学院を設立された小田先生の実家が医者であり、小田先生が地域の子弟の教育に取り組まれたことを考えると、まさしく地域に必要とされる人材を作っていくという原点に立ち戻ったとも考えられます。

まだまだコースの方は取組が緒に就いたばかりですが、地域に必要とされる人材をしっかりと育成していきたいと考えています。そのことによって本校を支援してくださる様々な方々の期待に応えたいと考えています。

今後とも東京庄原格致会の皆様から本校の教育活動に対するご理解、ご支援を賜りますことをお願い申し上げますとともに、東京庄原格致会の益々の発展をお祈り申し上げます。

「ご挨拶」



広島県立
庄原格致高等学校
同窓会会長

藤光 有

(昭和四十年卒)

東京庄原格致会の皆様には、ご

健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

日頃は、同窓会活動に對しましてご支援とご協力を頂いておりましたことに、心から感謝し厚くお礼を申し上げます。ふと気が付けば今日で6月も終わり、寝ても覚めてもコロナ・コロナの上半期が過ぎようとしています。世界のコロナ感染者は1000万人と、依然深刻な状況で、過去最悪のペースでの拡大が報告されています。東京での第二波の拡大が心配であります。くれぐれも密集、密接、密閉の3密を避けご自愛ください。さて、母校も休校が5月31日まで続きました。このような緊急事態であっても、在校生は自分を見失わず「格致生らしく」過ごしてくれたと、コロナ猛威さ中に離職任された今岡護校長（5年間にわたり勤務され医療・教職コースの開設等、次の時代への道筋をつけ今年3月退任）、現青本眞二校長ともに話されています。

最近（6月23日付）中国新聞に掲載された記事を紹介します。見出しは『東京から訪れた作家を道案内』であります。東京都に住まいの作家青木筈子さんが庄原出身の作家倉田百三の取材で庄原市を

訪れた際に出会い、親切に道案内をしてくれた高校生にお礼がしたいと望んでおられました。その生徒が庄原格致高校3年若山日向子さんと判明、県北地域の温かく率直で真面目な行動と大きな話題となりました。私もこの記事が嬉しく、また感動させられました。

若山さんは「道案内をしただけ」「創作のお役に立ててよかった」と、また会った人にあいさつするのは当たり前だからと初対面の青木さんに声をかけたと話しています。

私は倉田百三の言葉を借り、「青春は短い、宝石の如くにしてそれを惜しめ」を心に刻んで一日一日を大切に頑張っている後輩を誇りに感じた次第であります。

終わりになりますが、今からコロナ、猛暑と厳しい季節を迎えます。東京庄原格致会のますますのご隆盛と皆様方には充分お体に気をつけられ、頑張って頂くことを祈念しご挨拶といたします。

(令和2年6月30日記)



室伏 孝一
(昭和二十五年卒)

本年12月に89歳になる折、格致中学に転校するまでの足跡を纏めて振り返ってみます。

出生は、東京都千代田区三番町（旧麹町区）宮内大臣官舎の一寓（現在の千鳥ヶ淵戦没者墓苑）でした。父が宮内省の大膳に勤務しており、姉と弟、妹もここで生まれました。

4歳3か月の昭和11年2月26日に起きた2・26事件が幼い時の最初の記憶です。雪の積った宮内大臣官邸に憲兵の腕章をつけた完全武装の兵士の歩哨姿は臉に焼き付いております。官邸と隣接した侍従長の鈴木貫太郎さんが襲撃を受けて引き揚げてきた兵士を姉が見かけたと言っていました。事件が収まり雪解けの靖国神社の境内に集められた銃器が憲兵の見守る中

にあったことも記憶の一つです。後に事件の凄まじさを聞いて驚きました。

5歳になり東郷小学校・付属幼稚園に通い始めました。東郷小学校は学校の隣に日露戦争でロシア艦隊を打ち破った東郷元帥の屋敷があったのでその名が付けられていましたが、戦後マッカーサーの指令で消されてしまい現在の九段小学校と変わりました。今では東郷小学校の隣に東郷公園として子供たちの遊園地となっています。海軍記念日には日の丸の紙の小旗を振って東郷元帥の屋敷迄行列を組みました。現在も大妻女子大学が直ぐ裏にあります。当時からこの近辺は文教地区で周辺は広い住宅地で、幼稚園に通う道には大きな犬が庭を散歩していました。現在はマンションやコンビニが立ち並び当時と様変わりです。幼稚園には父の名古屋松坂屋転職の為、3か月程の通園でしたが、入園式当日の集合写真に東郷元帥の銅像と二宮金次郎の銅像が背後に写っており。幼稚園時代に祖父が三島から来て弟たちを乳母車に載せて姉と一緒に皇居の周りの堀端や英国大使館横の遊園地で遊んだ写真がアルバムに残っています。

満州国皇帝が来日され、皇居前の広場で騎乗の天皇陛下の閲兵式を父の肩車で観たことは強烈な記憶です。(今では想像もつかないことです)。毎年3月10日は陸軍記念日です。現在の日本武道館や、国立工芸美術館の所在地は近衛師団の兵舎があり紅白の幕が張られ一般にも開放され兵士達と交流が出来る酒舗(食堂)で飲食を家族で出来ました。この辺りは現在では市民ランナーのジョギングコースとなっていますが、幼い頃の散歩道でした。靖国神社の境内には各種イベントが催され、木下サーカスの公演会場が出来て円筒の壁面をオートバイが疾走したことを物珍しく眺めていました。境内の銅像や彫刻を眺めたり遊就館を遊び場にしておりました。祝祭日には市内(現在は都内)の電車には、花を飾った花電車が夜は提灯をつけて賑やかに走っておりました。戦後はこのような光景は全く見ることはできません。想像外でしょう。現在も靖国神社の参拝の折は必ず千鳥ヶ淵戦没者墓苑に参拝し、昨年より千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会の会員として入会もしました。春は桜花爛漫の千鳥ヶ淵戦没者墓苑も戦後75年を迎え諸行事が予定

されていますが、新型コロナウイルス感染拡大により、中止の知らせが来ております。しかし私としては8月15日の終戦記念日には参拝し、(亡妻の兄もフリーピンで戦死をしており)戦没者の遺族の一人として哀悼の誠を捧げたいと思います。皆さんも身内の方で尊い命を国に捧げられた方が居られましたら、靖国神社参拝の折は千鳥ヶ淵戦没者墓苑にも足を延ばしご参拝ください。幼稚園以後のことは次回に記します。

「林住期」



菟原 風生

(昭和四十年卒)

「Time flies like an arrow」(光陰矢のごとし)これは中学生の私が習いたての英語で記憶した言葉です。(もともとこの用語は英語では正しくないという説もあるようです)

その言葉のように今年も早くも半ばを過ぎ、本来ならばオリンピック開会の時期になっています。が、ご承知の通り、新型コロナウイルスの感染により延期を余儀なくさ

れたばかりか来年の開催も危ぶまれています。この新型コロナウイルスは専門家によれば、無症状の人が多く、症状が出るまに感染するという一筋縄でいかないしたたかなものようです。日夜懸命に治療に当たっている医療従事者の方々、心から感謝しながら治療薬とワクチンが一日も早く開発されることを願うばかりです。同時に、ウイルスも人間も自然の生態系の中で生存していることを考えると私たち人間はもう少し自然への畏敬の念を持ち尊重することが大切ないように思えます。特に、毎年のように発生する台風や豪雨災害で被災された方々の悲痛な報道に接するたびにその思いを強くします。

私にとっても時は矢のごとくで、来年初で後期高齢者になります。古希を迎えて完全にリタイアする予定でしたが、その前5年間に渡り高年齢者の就労の相談、援助の仕事をしたことが縁で、今度は低所得などの生活困窮者を対象とした就労の支援をすることになり現在も週4日の勤務を続けています。様々な経緯を経て困窮するに至った相談者が生活を立て直し、人間の尊厳を回復していく上で少しでもお手伝いできればと

日々励んでいます（なかなか思いどおりに行かないことが多いのが現実ではありますが）。

日本では後期高齢者という味も素っ気もない表現ですが、インドではヒンズー教の教えに四住期（学生期、家住期、林住期、遊行期）として人生を四つの時期に分けて考えていたということを10年位前に読んだ五木寛之氏の本で知りました。それまでは、人生の四季として青春、朱夏、白秋、玄冬しか頭にはありませんでした。なんとなく先行きは厳しい冬なのか、枯れ果てた寂しいイメージが晩年という感じでした。

その四住期によると私は林住期（50歳～75歳）から、間もなく遊行期になる転換点に差し掛かっていることになりました。林住期は、これまでの五十年の上に人生の黄金期、クライマックスを迎える時と考えたい、実際に社会から身を引く定年を人生の臨終期のように考えることをやめようと五木氏は言っています。

私も自治体の公務に従事し、多様な住民の方々と向き合いその福祉の向上を目指して仕事を続け、漸く生計を維持するためでなく働くことができるようになった今

は、黄金期とはいえないまでも少なくとも真の意味で生きがいを探し感じる時期であると思います。

この林住期を少し延長し、人生百年時代を迎えている一日一日を何とか充実したものに出来れば幸いと思います。

その先の遊行期は、この世の一切の執着を捨てて巡礼する生き方だそうです。到底その境地には及ばず、煩惱に取りつかれている人間にとっては、せめて老害を撒き散らかさないよう気を付けることが肝要と思っています。

母校だより



母校の現状

庄原格致高校 教頭

重森 佳裕

東京庄原格致会の皆さまには、日頃より本校教育活動、また在校生に対し多大なるご支援をいただきまして大変ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症もようやく収まりつつありますが、皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。本校でも、国の臨時休業要請などにより、3月、4月、5月の

ほぼ三カ月間が休業となりました。その間、卒業証書授与式、入学式はどうか実施できたものの生徒の登校しない寂しい期間を送っております。6月によりやく学校が再開となり、校内に生徒の歓声や笑顔があふれています。しかし、いつ感染が起きてもおかしくない状況の中、教室で「三密」を防ぐ取組や生徒には手洗い、マスクを励行させるなど、緊張感が続く日々が現在も続いています。

また、部活動も制限がかかっている中で、野球部やバレーボール部などいくつかのクラブでは、3年生にとつて最後の大会が開催できるところとなり、試合に向けて練習に励んでいるところですが、しかし休業中にできなかった授業時間を確保する必要がある、夏休みを縮小したり、文化祭や球技大会も中止にせざるを得なく、通常の学校生活に戻るにはもう少し時間がかかりそうです。早く収束してくれることを心待ちにしているところです。

しかしその一方で、休業中の学習を支援する目的で、ICTが学校現場に普及してきました。朝の健康観察や家庭学習用の課題プリントの送付、授業の動画配信などを、本校では積極的に活用しています。家庭の

コンピュータや生徒の持っているスマートフォンに学校からの情報を送り、生徒の方からもその回答を発信することが可能になっています。生徒からの評判も大変よく、多くの生徒がこれを利用して臨時休業中に学習を進めることができました。学校が再開された現在も、授業の予習や復習用として本校の教員が作成した動画を活用した授業展開を行っています。

本校に昨年度より開設された「医療・教職コース」も二年目を迎えました。県北の将来の医療や教育の担い手を育成する目的で始まったコースで、庄原赤十字病院や庄原市教育委員会、広島大学、県立広島大学との連携のもと学習活動を行っています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、予定をしていた病院や学校でのインターンシップに制限をかけるを得ない状況にあります。しかし、医療や教育の現場で必要とされるコミュニケーション力や仲間と協働して目標を達成する力などの育成を図っていきたくと考えています。また従来の普通科も含めて、今後の授業の中に「庄原の郷土」のことを学べる内容も取り入れるための準備をしています。将来、

郷土庄原を誇りに思い、庄原をはじめとする県北や日本の将来を背負って立つ人材を育てていこうと思っています。

今年度より、庄原格致高校に本校出身の青本眞二校長先生が赴任されました。青本校長先生を中心として新たな庄原格致高校がスタートしています。東京庄原格致会の皆さまには、今後ともご支援のほどをよろしくお願いいたします。

庄原に帰省されることがありましたら、お気軽に母校にお立ち寄りください。学校のご案内をさせていただきます。

(6月28日記)

郷土だより

古民家を宿泊施設に

長谷部泰士

(昭和四十八年卒)

幹事長 武廣君の庄原在住同級生です。コロナウィルスの影響で外出もままならず、自宅に引きこ

もる毎日です。会報が発行される頃には終息しているでしょうか？

庄原市は依然として人口減少が続き三万四千人台になってしまいました。そうした中、古民家を宿泊施設に改修して観光客を誘致する取り組みが始まっています。瀬戸内の観光産業の活性化に取り組む官民組織「瀬戸内DMO」(広島市中区)の構成法人「瀬戸内ブランドコーポレーション」が庄原市の古民家三棟を買い取り改修し、宿泊用に貸し出し、主に訪日外国人をターゲットに里山の自然や農村の暮らしを体験してもらう拠点にと考えています(もちろん日本人も宿泊可能です)。

簡単に立地、由来等をご説明しますと

①「長者屋」比和町三河内 江戸時代に建てられたとされる築約二百五十年の民家で約五十年前著名な民族学者宮本常一が訪問し写真に残しています。

②「不老仙」上谷町 仙人が暮らしたとされる上谷町にある築百年以上の民家で、家の前には美しい棚田が広がります。

③「こごこ森」高野町下湯川 県下有数の豪雪地帯高野の静かな森に囲まれた築百年以上の古民家で

す。「こごこ」とは山間の小さな谷の意です。

三棟とも改修は、外観や部屋の仕切りを活かし、風呂や空調は最新の設備を導入し古民家の風情を残しながら快適に過ごせるようになっていきます。基本的には一日一組一棟貸しです。運営は庄原DMOが宿泊業務を受託しています。ご家族で帰省の際またはお友達と是非一度ご利用になってみてはいかがでしょうか？

予約、料金、食事等詳しくは「庄原古民家」で検索または庄原市観光協会ホームページ「庄原観光ナビ」をご覧ください。



相続、贈与、年金、保険等相談

中田税務会計事務所

税理士 中田 毅 昭和39年卒

埼玉県狭山市下奥富797-5
TEL.FAX. 0429-53-9240



食彩館しょうばら
ゆめさくら



庄原のお土産は、
「庄原の食」を一堂に集めた特産店で！
お食事・仕出しは、お食事処 花ほぼろで !!

〒727-0004 広島県庄原市新庄町 291 - 1
TEL 0824-75-4411 FAX 0824-75-4422

〈指定管理者〉株式会社 グリーンウインズさとやま
代表取締役 奥井 智裕(昭和57年卒)

同好会だより

【囲碁同好会】

会員13人で頑張っている我らが囲碁クラブも新型コロナウイルスには勝てず、月一回開催してきた月例会を3月以降中止を余儀なくされました。

囲碁同好会は毎年、上期・下期に分けて「カップ杯争奪戦」を行い、併せて一年間の総合成績の表彰をしております。「カップ杯争奪戦」はその期の成績上位八名により敗者復活を織り込んだトーナメント戦で行っております。昨年（令和元年）下期はこの敗者復活から立ち上がった野村栄さん、宮原幸徳さん（29年卒）が優勝・準優勝に、三位に初戦から勝ち上がった桑原貞之さん（35年卒）が準決勝で野村さんに敗れましたが三位決定戦で八谷英樹さん（35年卒）を下しそれぞれ賞金を獲得しました。

年間表彰では岩竹康良さんが最優秀賞カップと賞金を、二位（敢闘賞）に桑原貞之さん、三位（努力賞）に坂部賢治さん（53年卒）

が入り、それぞれ賞金を受け取りました。（注）卒年のない方はOB外会員）

囲碁同好会では会員の募



集を行っております。囲碁に興味をお持ちの方ならどなたでも大歓迎です。同窓生以外の方なら、会員の紹介があれば参加いただけます。加入に当たっては年会費2千円を、月例会（毎月第二日曜日、新宿の囲碁サロン喜楽で開催）の当日は昼食代・飲み物代等として2千円をいただいております。参加ご希望の方は事務局（八谷・090-1110517272）にご連絡下さい。

「囲碁サロン喜楽」の住所等は
新宿区新宿3-21-7

東新ビル7階
☎03-3341-4545

JR新宿駅東口から10分弱の場所に
あります。

【ゴルフ同好会】

「第7回県北三会合同ゴルフコンペ」結果等

亀井勲三

（昭和三十五年卒）

今、この拙文を書いているのは「新型コロナウイルス緊急事態宣言」が発令中の令和2年5月10日です。

1. コンペ結果について

昨年（令和元年）10月8日（火）、千葉県野田市所在の「紫カントリークラブ、あやめ36東コース」〔関東アマ予選〕などが行われる本格的林間コース」で「第7回県北三会（格致会、馬洗会、西城会）合同ゴルフコンペ」を開催しました。参加人員は19名（女性1、男性18）でした。最年長者は、「格致会」の兼利卓蔵さん86歳で、大変陽気でお元気にプレーされていました。天候は曇り、最高気温28.3℃、競技方法は、新ペリア方式で行いました。プレー中は、県北の仲間同士、方言丸出しで、大変楽しくプレーすることができました。同郷の仲間とはひと味違います。戦績の概要は次の通りです



庄原さくら温泉

かんぽの郷 庄原

〒727-0004 広島県庄原市新庄町281-1

TEL.0824-73-1800 FAX.0824-73-0100

<委託運営会社> 株式会社サンヒルズ庄原

社長 阿部 隆弘（昭和53年卒）

どんな小さな工事・修理でも、お気軽にご相談ください

ガーデン & エクステリア

0120-454295 お気軽にどうぞ



株式会社 八王子装建

代表取締役 西谷 光徳（昭和46年卒）

諸官庁工事指定店 10年保証 お見積り無料 迅速対応
八王子市子安町1-32-19

TEL: 0426 (45) 4295 FAX: 0426 (44) 8549

URL : <http://www.h-soken.com/> E-mail : nisitani@h-soken.com

(敬称略)

優勝・戸田正則(西城会)、準優勝・亀井勲三、第三位・加藤勝(格致会)、ベストグロ・松本弘行スコア84(馬洗会)

2. 新年会について

令和2年1月18日(土)のお昼前に、16名が集まり、杭迫さん(馬洗会)の紹介で、「上野精養軒」を会場に「飲み食い放題」の今年初の顔合わせ会を行いました。当日は曇りで寒い日だったこともあり、日本酒の熱燗に人気が集出し、テーブルには沢山の空銚子が林立していました。杭迫さんが「18歳と81歳の違い」と題した世相を反映したペーパーを配ってくれました。その内容は、①道路を暴走するのが18歳、逆送するのが81歳、②恋に溺れるのが18歳、風呂で溺れるのが81歳、③まだ何も知らないのが18歳、もう何も覚えていないのが81歳 など12文ありました。なるほどと歳を再確認した次第です。

3. 春のコンペについて

今年4月21日に予定していた「第8回コンペ」は、コロナの終息見通しがつかないことから、延期としました。

これからも三密を避け、お互いに注意して、病院を梯子することなく、

自宅ですばらしく様子を伺いましょう。終息の暁には、どうぞ奮って入会して頂き、ゴルフを通じて親睦を図るうではありませんか。

【バス旅行同好会】

東京庄原格致会と東京・西城会合同バスハイクを終えて

旅行幹事 助政 千尋

(昭和四十年卒)

9月7日(土)晴天の早朝午前6時30分頃から、千葉県・茨城県・埼玉県・神奈川県と遠方からの会員達が続々と工学院大学前に集合しました。

東京庄原格致会、東京・西城会、家族・友人、東洋薬行から15名、合計41名が西武バスに乗車し、午前8時過ぎに出発しました。今回は女性14名と板羽美帆さん(小学3年)と古賀匠疾(こがたくと)くん(3歳)の参加があり、和やかな旅行になりました。座席表のとおり席に着き、ビールや焼酎・日本酒・お茶・つまみが配られました。運転手、ガイドさ



んの挨拶のあと、助政・加藤(西城会)の両幹事の挨拶、合田前会長(33卒)の乾杯、新山西城会会長(37卒)の挨拶がありました。練馬LPから関越に、三芳PAで最初の休憩、少し雰囲気は和やかになりました。花園ICから皆野寄居高速に入り、道の駅花園で休憩、午前11時30分から荒川ライン下り、船付き場で両会の旗を広げて記念写真を撮影しました。その後、2組に分かれ、木造船

創業41年



二階堂調剤薬局グループ

代表取締役 薬剤師 石井美佐子 (旧姓 瀧口) (昭和48年卒)

まへの薬局本店 二階堂調剤薬局
まへの薬局北口店 大山調剤薬局
まへの薬局南口店

東京都板橋区南常盤台 1-30-21
TEL 03-3958-9955



に乗り、全員ライフジャケットを着けて、船頭さんの案内で荒川を下っていきました。流れが強く、水しぶきがかかります。ビニールシートをかぶって進みました。途中から長い瀬(とろ)になり、兩岸の岩畳は見事でした。陸橋を丁度SLの蒸気機関車が走っており兩岸にカメラマンが多くいました。約30分乗船し、下船してからガイドさんの案内で万寿庵、それから有隣倶楽部で昼食、ビールで乾杯してから竹膳料理を食べました。小鮎の甘露煮・椎茸・舞茸・シントウの天ぷらが揚げたてで旨かった。ビールの追加もあり、子

供さんが走り回り、楽しいひとときでした。

午後2時ころから秩父まつり会館で秩父祭りの屋台や秩父神社の夜祭のビデオを見て、その後歩いて秩父神社に参拝し、左甚五郎の虎の彫刻を見学、地場産セーターで買い物をしてからバスに乗車しました。バス内では役員持参の本(恵木弘著「健康に生き抜く最高の養生」10冊・文房具 羊羹・金一附など景品が多く集まり、空くじなしのビンゴゲームでした。しかし、板羽美帆さんが最後までビンゴにならず、少しかわいそうでした。

それから恵木先生(東洋薬行相談役)(30卒)の健康漢方講話とカラオケです。歌の先生と生徒もおられ、上手い歌唱力に酔いしれながら午後6時40分ごろには新宿西口近くに着きました。

また、来年会いましょう・声を掛けあい、それぞれ帰路につきました。晴天で、楽しい行楽の日でした。

2019・9・10 記す

(注：令和2年度のバス旅行は、新型コロナウイルス感染予防で中止です。)

「投稿 かたえくぼ」

ペンネーム 印旛河童(匿名希望)

ひよんなことから新聞に投稿を10年来続けています。日々読む紙面の中に、内容は簡単なのに少し面白い欄を見つけました。朝日新聞の読者投稿「声」面にあるコント「かたえくぼ」で、時事ネタを面白く取り上げています。掲載されている内容は、まさにおやじギャグの延長線上にあるような、ほとんどダジャレとしか思えないような内容ですが、ちよっぴり風刺もきいているのです。おやじギャグなら多少の心得があると自負していましたが、暇つぶしがてら何回か投稿しているうちに愚作がたまに採用されました。これまでに約90本が採用されましたが、コロナ禍の中、皆様に少しでも笑顔になって頂ければと思います。ただけ披露します。

○「台風」ヘルトタスカルー気象庁

2010・11・2 掲載

○「総裁名で奉納」玉虫料ー国民

2013・8・16 掲載

○「ポケモンGO」こちらポケモン

ーガラケー愛用者

2016・7・26 掲載
○「夏本番」けなし中華はじめました
ー大統領ツイッター
2017・8・5 掲載

○「桃栗3年」ハキ1年ー招待者名簿
2020・1・10 掲載
クルナウイルス！
皆様お気をつけください。

(編集担当：掲載当時の事を思い出しながらゆつくりとお読みください。小さな笑いがあるかも知れません。「笑う門には福来たる」です。)

デザイン・印刷・ノベルティで企業イメージをUPさせる販促品をご提案いたします。



株式会社
クレスコアースコミュニケーションズ
〒101-0041
東京都千代田区神田須田町 2-2-5 CTNビル 7F
TEL.03-5207-5189
www.cresco-ars.co.jp

令和元年度東京庄原格致会会計報告

(自令和元年7月1日~至令和2年6月30日)

一般会計収支報告書

(単位:円)

収入の部		支出の部	
前年度からの繰越金	87,738	総会経費	362,354
年会費	224,000	会報作成費・発送費	249,892
広告収入	110,000	母校・他校同窓会祝い金等	70,000
総会会費	318,000	幹事会経費	1,556
お祝い	60,000	HP関係経費	54,457
寄付	42,000	後納郵便料	8,627
受取利息(一般)	0	振込手数料	14,493
		通信費等事務費	10,280
		次期繰越金	70,079
合計	841,738	合計	841,738

基金会計収支報告書

(単位:円)

収入の部		支出の部	
前年度からの繰越金	84,115	次期繰越金	94,115
寄付	10,000		
受取利息(基金)	0		
合計	94,115	合計	94,115

財産目録(令和2年6月30日現在)

(一般勘定)

郵便局 振込口座 (年会費振込口座)	24,525円
〃 一般口座 (一般口座)	45,554円
合計	70,079円

(基金勘定)

郵便局口座	94,115円
合計	94,115円
総合計	164,194円

左記のとおり報告致します。
 令和2年7月28日
 東京庄原格致会
 会長 八谷英樹
 監事 遠藤靖夫
 監事 塚原通彦
 事務局長(会計) 武廣 巖

東京庄原格致会役員名簿(令和元年十月二十日)

顧問	室伏 孝一(昭和二五年卒)	吉岡 公義(昭和三五五年卒)
兼利 卓蔵(昭和二八年卒)	会長	八谷 英樹(昭和三五五年卒)
渡利 治博(昭和三二年卒)	副	渡邊 千草(昭和三八八年卒)
飛谷 安宣(昭和三二年卒)	副	花田 和教(昭和四〇年卒)
生田八洲紘(昭和三三年卒)	幹事長	助政 千尋(昭和四〇年卒)
合田 良三(昭和三三年卒)	副	石井美佐子(昭和四八年卒)
森沢 進(昭和三三年卒)	事務局長	武廣 巖(昭和四八年卒)
迫田 芳徳(昭和三四年卒)	副	奥重 秀彦(昭和四七年卒)
田淵 統洋(昭和三五年卒)	副	西川 進(昭和四八年卒)
積山 弘佳(昭和三五年卒)	幹事	大岩 征子(昭和三七七年卒)
光島 勝馬(昭和三五年卒)	幹事	小池 正之(昭和三八年卒)
	監事	塚原 通彦(昭和三八年卒)

編集後記

同窓生の皆様、如何お過ごしでしょうか。今年も、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、オリンピック・パラリンピックをはじめ各種イベントの中止が相次ぎました。東京庄原格致会の総会・懇親会もやむなく中止の判断をされました。皆様、お身体には十分お気を付けてください。

今号も皆さまにご協力をいただき、発行できることになりました。(総会等の中止決定後に再編集したため、皆様へのお届けが例年より遅くなりましたがご容赦ください。)

母校の校長先生に母校の卒業生である青本眞二先生が着任され、ご寄稿いただいております。

母校同窓会会長の藤光有様から、格致生の心温まるエピソードをご紹介いただいております。

会員からは、昭和25年卒の室伏孝一様から幼少期の思い出を、同40年卒の菟原風生様からは、生活困窮者の就労支援を週4日行っておられ、生きがいを感じているとご寄稿いただきました。また、匿名希望者から、新聞への投稿を続けているとの情報が寄せられました。

重森教頭先生からは、3ヶ月の休業後の母校の状況をお知らせいただきました。

株式会社サンヒルズ庄原(かんぼの郷庄原)前社長の長谷部泰士様(昭和48年卒)から、古民家を改修して宿泊施設として活用しているとの情報をいただきました。

同好会(囲碁、ゴルフ、旅行)の活動状況を紹介しております。残念ながらコロナ禍で現在活動は中止しておりますが、再開が待たれるところです。ご執筆いただいた皆様ありがとうございました。

コロナ禍で移動範囲も限られる中、カートの試合を楽しみにしていますが、8月までは残念な結果となっております。新聞も暗い気持ちで開くことが多いのですが、若手の活躍には明るい兆しを感じています。

知り合いの同窓生がおられましたら事務局にご連絡ください。同窓生の輪を広げたいと思います。会報をお読みいただいている感想や新しい企画などをお寄せいただければと願っております。ホームページの「皆様のご意見」に投稿いただくか、事務局宛にご連絡下さい。(事務局)

年会費の納入のお願い!

「年会費」は、東京庄原格致会の会報発行等の運営費を賄うための最も重要な財源です。

御一人二千元をお願いしております。お送りいたします振替用紙で入金いただけますよう、よろしく願います。

「ご寄付をありがとうございます。」
 この一年間に次の方々からご寄付をいただきました。心よりお礼を申し上げます。

- 基金会計 八谷 英樹 様 (三五年卒)
- 一般会計 三浦 重造 様 (二六年卒)
- 恵木 弘 様 (三〇年卒)
- 赤堀 博夫 様 (三一年卒)
- 積山 弘佳 様 (三五年卒)
- 加藤 勝 様 (三七年卒)
- 平川 智子 様 (三八年卒)
- 守長 和子 様 (四一年卒)
- 吉田 順次 様 (四六年卒)
- 本間 ますみ 様 (四九年卒)

ホームページ活用をお願い

ホームページをより充実したものにするため、皆様からの沢山の情報・投稿をお待ちしています。
<http://www.t-shobara-kakuchi.com>